

株式会社日本大学事業部の社長になると何をやっても良いらしい。

社長のお膝もとでの生物資源科学部が保有する西富士校地の地下水採取の目的は何なのか？

研究目的か？事業目的なのか？生物資源科学部の学術研究対象に水のテーマは見当たらないし、事業目的の場合、他の業者も採取したがる国立公園内の水なので、なんらかの条件や販売制限等があるはず。

また、水採取に際し、許可権限のある環境省と富士宮市役所の環境経済部商工観光課（？）へは、生物資源科学部校友会支部長でボーリング会社社長（？）の内田が何度も訪問し打ち合わせをしたようであるが、打ち合わせ内容等を学部なり大学が把握し、コンセンサスを得ているのだろうか？

この構図から浮かんでくるのは、水源をボーリングし、水採取に係るプラント等をコンサルティングする人物だけが儲かり、水源やプラント等を設置・維持・管理し、採取した水を大々的に販売しなければ大学が大赤字を恒常的に垂れ流す構図が読み取れる。

採算にのせるべく販売手段として、学部長自身が社長を務める“疑惑の総合商社・株式会社日本大学事業部”が取り扱う学内自販機等を通じて販売したとしても、ブランド力の無い“日大の濁った水”の販売本数は限られるであろう。ついでに言うと、生物資源科学部の自販機は、日大事業部の取り扱いではなく、社長のお膝元のため学内で唯一学内意向が認められて従来どおりの小田急扱いとなっているようである。

“他人に厳しく、自分達に甘い”株式会社日本大学事業部の社長はいかがなものか？

以 上

なお、本情報を公表する際は必ず各方面からの裏を取っていただき、文章の言い回しや多少内容を変えて御社の取材記事として公表願います。あわせて本文をそのまま掲載するのはおやめ下さい。よろしく願います。

日大維新の会